

おお大勝利

令和4年度 山東サッカー部報第10号 (3月14日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

皆さま、**大変大変遅いご挨拶となりましたが・・・**

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ致します。

ここ最近、毎年新年号が、11月から3月にかけての活動報告になっている。昨年の部報を確認したら、1年生大会からの報告だった。今年は、その前に、**①**リーグ戦最終節（VS鶴岡中央戦）の報告から致します。続いて、**②**1年生大会、**③**後援会主催の納会、**④**校内合宿、**⑤**大学入試前期試験結果速報をお伝えします。

ですがその前に、新年号では必ず触れている**恒例の？部報作成者顧問今野の残留確率の発表**と行きましょう。来年度（令和5年度）の今野の残留確率は**12%**です！！この確率の「計算式」については、HPにて平成29年度の部報最終号（16号）をご覧ください。1年ずつ7%減少していきます。確か、9年前に（山東8年目に際して）、残留確率75%から始められたのですが、とうとう、**残留確率が8分の1を切りました**。今年で山東17年目ですから、毎年が勝負です。ただ、来年度はこのまま行くと3年生担任になりますので、さすがに今年の異動はないのではないかと安心しています（来年の異動はビクビクして迎えることになります）。皆様、来年度もよろしくお願ひ致します！

リーグ戦2部昇格を決める

11月6日（日）県リーグ3部Aブロック最終戦鶴岡中央戦が行われました¹。鶴岡中央はここまでリーグ最下位と苦しんでおり、すでに降格を決めている。**山東はこの試合勝つとリーグ2位以上が確定し、2部リーグへの昇格を決めることができる**。3年生が引退してからも新人チームで粘って勝ち点を積み上げた結果、自力で最終戦を迎えることができたのは望外の喜び。あとはしっかり勝ち切るだけ。

とまあ、こんな風に言うは易しですが、**このチームに簡単な試合はない**。相手の出方に応じて動きを変える、プレーを変えることができる選手がいないため、どんな相手にも（相手がアプローチに来る来ないにかかわらず）無駄に焦る。そう、よく「相手に合わせるな」「自分たちのリズムでやれ」などと言われますが、「相手に合わせてプレーする」ということと「相手に応じてプレーをする」ということとの間の大きな落差に気づかないうちは、いつまでたっても安定した試合運びはできないでしょう。

勝ちたい、勝たなきゃいけない試合と思いつつ、明正Gにて今季初のリーグ戦有観客での試合を始めると・・・やはり前半、リーグの順位でどちらが上かわからない試合展開

¹ 山形県リーグ(Yリーグ)は、1部8チーム、2部8チーム×2ブロック、3部上位8チーム×2ブロック、3部下位と続きます(2023年度より、Y1は10チーム制となります)。通常リーグ戦は選手権前の9月末で終了するのですが(そうした予定を組むのですが)、今年はコロナで順延が続いたのと、とはいえ、昨年のように全試合消化をあきらめるほどでもないのと、リーグ終了の時期を後ろにずらして、できるだけ2回総当たり完了を目指しました。

となる。相手の中心選手を核とした攻撃をなかなか止められず、深くまで攻め込まれることが多い。逆に山東が攻撃に転じて、いわゆるイージーミスによりリズムができる前に自滅。**技術（精度）もないのですが、それ以上に、狙い（アイディア）を欠いている。**上手い下手を超えて、「俺は相手を上回るこんな狙いを持ったプレーできるんだぜえ」という**自己主張が感じられる（意外性のある）プレーが少なく、観ていてもつまらない。**結局、攻め込まれるだけに広大に空いているスペースめがけて蹴り込み、足の速いFWを走らせる攻撃が一番可能性を感じさせる。前半両チームスコアレス。

後半は、少し手厚く攻めることができきて、というか、相手の長所を消す守備が徐々にできるようになってきて、押し込む時間が長くなる。セットプレーから、**山東の「the ユーティリティープレーヤー」2年マサツナ**が決めて先制。彼は今期、公式戦にてFW、SH、SB、CBで出場しているが、この試合は確か、SBでの出場だったと思われる（GKとボランチだけではない²）。2点目は「**ハングリー精神とタイガーショットを欠いた日向小次郎**」1年ソータが決めたようだ。試合の詳細は記憶にないので、**後藤さん編集の「山東サッカー後援会HP」**で確認しながら書いております。3点目は「**神町が生んだ天才書評家**」1年ケンヤが決めて、結局終わってみれば、**3対0で山東の完勝。**スコアだけ見ると確かに完勝ですが、前半2失点くらいしていたら、負けていたと思います。

とまあ、辛口に書けばいくらでも書けますが、これで山形城北Bに次ぐリーグ2位を決めることができ、2部への昇格を自力で決めた。3年生の積み上げた勝ち点が効いたのは間違いがないが、指導者としてはそれ以上に**新人チームが積み上げた勝ち点8**が貴重に感じられたし、うれしくもあった。1、2年生は先輩方の戦い、自分たちの戦いで勝ち取った新たなリーグを来シーズン無駄にしてはならない。

1年生大会 厳しい大敗に終わる

11月26日（土）村山地区恒例の1年生大会1回戦が行われました。他地区では、1年生だけでは人数が揃わないチームが多く、昔あったこの大会もなくなってしまったが、村山地区ではいまだに、その世代の名誉をかけて戦っている。少なくとも私が山東に赴任してからの17年は、1年生大会で好成績を残したことはない³。その後、県総体で2位になったり、3位になったりした学年もあったが、1年生大会は惨敗ばかり。そこから成長したとも言えるし、1学年だけの勝負は山東では難しいとも言える。

今年は昨年までと異なり、11人そろっているし、県総体や選手権に出た選手も多い。ただ、1回戦の相手は山形中央と、ちょっとくじ運が悪かったか。まあ、実力があれば、くじ運の話はしなくてもよいのかもしれませんがね。

人数は揃っているものの、他の部から助っ人を呼んだ模様。**男子ハンドボール部スナオくん**。中学まではサッカーのGKだったとのこと。「1年生、**ブッフオン（ことカイト）**じゃ頼りないから、GKを用意したか」とその策略に思いを馳せていると、なんと、スナオを呼んだのは当のブッフオンとのこと。「なんだそりゃ、自分の出場時間を自分で削るとは・・・」と内心嘆いて会場に入る。試合内容は、1年生もそれなりに頑張りましたとだ

² これだけ複数ポジションしていて、ボランチだけはないというのが、彼の特徴を示しています。来年はGKでの活躍も見られるかもしれませんね。

³ 私が赴任する前年、**ナオヤの代（山東第58回卒）**では、1位か2位になったと記憶していますが、私が来てからは上位入賞すらありません。

け表現し、あとは割愛。スナオの起用法ですが、ブッフォンの強い意志により、スナオはFPで途中出場。**1年生唯一のGKブッフォンのやる気に内心ほっとする**とともに、わざわざ駆けつけてくれたスナオに慣れないポジションやらせるなんて申し訳ない気持ちが湧く。

試合は0対6の完敗。山形中央が良かったわけではなく、山形東の選手のトレーニング不足をただ感じました。ともかく、**元気に前向きにプレーしてくれたスナオくん、ありがとう。河川敷で待っているよ！**

すき焼きを食べながら 納会3年ぶりに開催

12月12日(月)市内の**中島商店**にて**サッカー一部恒例の納会**が開かれました。この納会は、**元後援会長の故武田栄四郎先輩**や**元副会長の奥山先輩**らの発案で40年ほど前から開催されるようになった会として、私も高校生の時に参加した記憶がある。後援会(OB会)の皆様が現役生を呼んですき焼きを振舞いながら、優秀選手に賞を贈り1年間の活動を労いつつ、翌年に向けて(3年生には受験に向けて)激励して下さる、そんな場として脈々と受け継がれて参りました。

ここ2年程、コロナによってその形で開催できず、昨年は飲食なしで会議室にて激励と優秀選手賞の授与だけ行った。**今年も微妙な時期ではありましたが、後援会の方のご英断と「ぜひ一度はすき焼きを食べさせてください」という3年生の強い希望により、すき焼きを囲んでの納会が3年ぶりに開催となりました。**

そこで発表されるのが、2022年の優秀選手。今年は下の5名が選ばれ、優秀選手賞を授与されました。岸後援会長や清野名誉会長、後藤報道局長、佐藤事務局長らの激励を受け、3年生は受験への意欲を語り、2年生代表が来シーズンの抱負を述べました。

後援会の皆様、ありがとうございました。

野口 凌

凌1年次から試合に出続けた。サッカーインテリジェンス、ボールを隠す運び方、ここは抑えないといけないという急所を見抜く力、体を当ててボールを奪ったり逃げずに正面から力で奪いに行ったりする球際の理解と、ボランチに必要な多くの能力を持ち合わせており、山東サッカー部生活でも能力を伸ばし続けた。2年次ではチーム事情によりCBに回ったが、クレバーさと球際の強さがあり、頼もしかった。3年次ではボランチに戻り、チームの大黒柱として機能するとともに、得点能力も光った。県内なら、どの強豪チームに行ってもスタメンで活躍する力がある。ただ、キックのテクニックに甘さがあり、ミドルパス・ロングパスで深く広く山東の攻撃を牽引したり、ドリブルしてのミドルシュートを突き刺したり、というのがなかった。良いものを持っているが、伸び代はある。ぜひ大学で一回り大きな選手になって欲しい。役職に就くか否かに関わらず、ピッチ内外で実際に他の選手を動かすことのできた人間であり、そのリーダーシップの今後に期待したい。

四釜 寛大

上背があり、中学からCBの経験者として入部し、期待の選手であった。当初よりクロス対応などでいかにもCBらしいプレーができて、その後の成長と活躍が予想された。しかし、1年途中から持病の腰痛に悩まされ、2年生の1年間はほぼピッチに立てなかった。しかし、地道にリハビリを続け、仲間と部の活動を共にし続けた。プレーができて辞めていくチームメイトがいる中、プレーできなくとも希望を捨てずに長期のリハビリに励み、

また、陰から部員の活動を支えた。その甲斐あってか、3年次には頼れる我らがCBとして活躍。特に、右足での正確なフィードにより、何点もアシストを決めた。彼の苦勞を知る者にとって、彼の活躍は感動以外の何物でもなかった。彼の高校サッカー生活に最大級の賛辞を送りたい。ボールタッチなど基礎的なボールコントロールには課題があるが、それよりも、高3にてヘディングシュートをもっと見たかった。今後は東京での生活になるようだが、遊び過ぎずに学生生活を送り、後輩たちを見守ってもらいたい。

富樫 泰太

小学ではクラブでプレーしており、当初より「市内の普通の中体連出身の選手」ではなかった。中学では左SHをしていたとのことだったが、スピードがあるし、球も捌けるので、すぐCBにコンバートされた。その後は、相手の裏抜けにも最後には間に合ってくれて、シュートに足を当ててくれる頼りがいのあるCBとして活躍。引退まで不動のCBになるかと思わせた。ただ、そのスピードは攻撃にも生かせるので、オーバーラップした時には途中で攻撃を止めずシュートまで行けとの指示を指導者からたびたび受けており、2年次途中からその攻撃力を買われ、CFにコンバート。すると、今度は裏抜けが得意なFWとして、得点を量産。3年次のリーグ戦では、最終節までやっていないがリーグ得点王となった。足元(の技術)があり周りが見えるゆえか、最後強引に突破したりシュート打ったりするエースとしての仕事が求められるところで周りを使ってしまい、気持ちの弱さが垣間見えるところもあったが、そこを含めて医学部サッカー部での伸び代としてほしい。佐竹コーチが監督をしているチームで、ぜひ大暴れしてもらいたい。

大沼 俊介

中学からボランチ、アンカーとしてプレーし、高校でもほぼずっと同じポジションでチームを動かした。当初は、ボランチにしてはひ弱であり、MFにしては縦に運ぶ力に欠けて、短い横パス・バックパスばかりしているとの評価を顧問から受けた。その意味をよく理解し、シュートや縦パスへの意識が高まった高校サッカー生活だったように思われる。また、上背がないことを言い訳にせず、ヘディングの意識も高まり、ボランチとして安定して跳ね返すのはもちろんとして、CKにてヘディングシュートを決めた。ミドルシュートの意識も芽生え、3年次は積極的に狙った。野口とのボランチ間の関係はよく、山東のサッカーの質を高めることに貢献した。多くの選手同様左足のキックには課題があるが、その前に、左足で運ぶことに課題があるので、両足でのスクリーンの技術がもっとあれば全方向にボールを運べる選手になる。今後は、ぜひ現役で志望を決め、グラウンドマネージャーとして練習をリードしただけでなく、学習面でサッカー部をリードした高校生活を良い形で締めくくって欲しい。

佐藤 壮悟

上山の中体連出身で、元気の良いのが取り柄。キックとヘディングに優れ、当初はCBやボランチなど、ボールを跳ね返したり配球したりするポジションを務めた。1年の途中から、学年にGKがいなかったのと、器用さがあったこと、そして走力に欠けることから、顧問よりGKへの転向を命じられる。すると、水を得た魚のように、FPの時のレベルをはるかにしのぐ素晴らしいGKへと成長した。1学年上の矢吹というお手本との練習と高橋コーチのシュート練習を積んだからと言えればそれまでだが、転向後1年経たないうちから「ここまでできるのか」と指導者を驚かせ、経験者と勘違いした他チーム指導者を驚かせた。FPで培った配球力もGKでより発揮された。本人も天職を得たと感じて、自らの成長を楽しんだ。2年途中からは部長となり、1年次に大量の退部者を出し、モチベーションに

課題のあった学年を明るくまとめ上げた。3年では GK サブ要員として選手権に借りだされ、折角だからと FP で出場。米中戦では山東の「追い上げ」に間違いなく一役買った。物事を前向きにとらえ、仲間と協力しながら課題を解決する力があり、将来どんな道に進んでも楽しみな人間である。1年次にラグビーW-Cupがあり、姫野似からジャッカルというあだ名がつき、定着したのも、思い出深い。

2回の校内合宿を経て

近年の冬の山東は、コロナとは関係なく、県外遠征に全く行かず、校内合宿で力を溜める方針でやってきました。その理由は、①降雪のため外で練習できないが、体育館なら朝と晩は空いており、合宿なら朝晩の2部練できる、②運動選手らしからぬ細い体型の選手ばかりなので食事合宿としても有効、③満足に練習できていないのに県外遠征に行っても得られるものが少ない（冬場の Training を Match で確かめるほど、良い Training 積めていないので、まずは良い Training をしっかり積みたい⁴）というもの。

今年は**1月6日(金)～8日(日)**と**1月20日(金)～22日(日)**の2回実施。朝練は5:00開始。夜練は19:00開始と基本的には例年の通りのスケジュール⁵。その間は、休息だったり、学習だったり、フィジカルトレーニングだったり。朝練と夜練の間には、**2年マネージャーのクルミ**と**1年マネージャーのタナカちゃんことミナミ**⁶の握るおにぎりを頬張る。そんなもって、朝昼夕の三食は**テリックさん**によるガッツリした食事。腹パンパン、そして寝不足気味になりますが、多くのOBが「辛かったけど、一番うまくなった実感がある」と評するのが、山東の校内合宿なのです。

例年の通り、たくさんゲームをする中で、攻守の強度だとか、守備における「一発」で抜かれないためのボディシェイプだとか、少ないタッチでの関わりだとか、個人戦術の確認をすることができました。これですぐ春からチームの連携が取れるという訳ではないですが、個人戦術はチーム戦術に至るまでの基礎に当たる。個人戦術が身についていないと、チーム戦術は絵に画いた餅に終わりますからね。あと、得点したら必ずみんなですべて喜んでというルールを導入するなど、一体感や勝負へのこだわりの醸成にも努めた。正直、こんなレベルの低い工夫恥ずかしいのですが、今の山東の選手たち、勝負の対して淡泊でチームの一体感も自然には出来上がらない。**目の前の敵に簡単に負ける選手が、重要な試合にだけ勝負強くなれるなんてあり得ない（日常から勝負にこだわっている選手だけが重要な試合でも勝負強くなれる）**ということに、早く気付いてもらいたいところ。

まだまだ「手応えがある」と言えるトレーニングを積めたわけではないですが、限られた環境の中で自分たちの課題に向き合うことができました。

⁴ この英語表現は、よく指導法で言われるところのMTMのサイクルを意識しています。試合 Match の分析から Training の内容を導き、その成果として再び Match を設定するという流れ。山東にある程度力があつた時代は Match→Match→Match でも向上していましたが（ある程度以上の選手は試合の中で、試合によって成長していけるが）、ある頃から現状の山東に合っていないと感じ始めました。

⁵ 第2回目はグラウンドで練習できたので、夕方練習して、早めに上がって早めに寝て、翌朝4:30から練習しました。

⁶ タナカちゃんと呼んでいますが、名字は鈴木です。

大学入試結果速報！

正確には、次年度の部報でお伝えしますが、私大と国公立の前期試験の結果が続々届いております。サッカー部の卒業生（含む浪人生）は、今年も昨年に引き続き、素晴らしい結果を出してくれました。**文武両道を実践した山梨サッカー部 OBOG 諸君、あっぱれ！**

【国公立】

東京大学	文科Ⅰ類	1名
	文科Ⅲ類	1名
東北大学	理学部	1名
	工学部	2名
山形大学	医学部医学科	1名
金沢大学	理工学域	1名
	理系一括	2名
横浜市立大学	国際商学部	1名

【私立】

慶應大学	商学部	1名
東北医科薬科大学	医学科	1名
東北学院大学	文学部	1名

OBOG活躍報告

3月13日（月）グローバル人材育成講座という講演会が開かれまして、その講師として、**山梨第56回卒（2006年3月卒業）のサッカー部OB 本間拓也さん**がいらっしゃり、1・2年生全員に講演して下さりました。本間さんは、途上国・新興国を含めた教育アクセスの乏しい国・地域・人々にインターネットを通じて教育機会を届ける活動を行っており、社会課題の解決とグローバルビジネスを両立させていらっしゃる。日本でも有名な**スタディ・サプリの開発に携わり、現在は Manabie というグローバル Edtech カンパニーを運営**し、シンガポールを中心に活躍している。Muse 奨学金を創設し、山形県の高校生に対する支援活動もなさっている。

生徒たちは、自分たちも活用したことのあるスタサプの開発者のOBを間近にして、また、国際競争の最前線のお話に、目を輝かせておりました。こういう素晴らしいOBOGを輩出し、その話を直接聞くことのできる本校の環境は、非常に恵まれているなあと改めて感じました。

本間さんは、私と入れ替わりで卒業されましたが、この部報はチェックして下さっているとのこと。海外にいらっしゃるOBOGもこの部報を楽しみにして下さっている、という現実に改めて身が引き締められました（ちゃんと書かなきゃな〜）。また、現役の活躍を楽しみにして下さる熱いOBOGの存在に胸が熱くなりました。**本間さん、引き続きご活躍を！**後援会の会報にいずれ寄稿してくださいね！！